くじゅう坊ガツル地域の陸生昆虫

坊ガツル地域は野焼きと放牧が繰り返されてきた自然です。ススキやスゲなど多くの植物を育む生態系は、それらの植物を宿主とする昆虫類によって支えられています。近年、野焼きや放牧がなくなり、火山が噴火し、環境の変化が考えられてきましたが、今回一部の昆虫が見られないことに気付きました。ウスバキトンボ、ミヤマアカネ、ヒメアカネには火山ガスの影響が考えられます。また、大正・昭和の昆虫愛好家で、くじゅうの自然保護をいち早く訴えた故長金治氏を魅了したのは、ここのミヤマカラスアゲハでした。それがカラスアゲハとともに姿を消し、アキアカネの減少は全国的な現象として話題になっています。

人がこれまでごく当たり前に出会い、親しんできた昆虫が姿を消すという悲しい現象が現実に起っているのです。目に付きやすい種だけの現象ではないと思われます。火山は人為を超えますが、坊ガツルの環境変化の原因はそれがすべてではなく、個々人の行いを基盤とする途方もなく大きな地球全体の人為的な環境変化の表徴とも考えられます。昆虫たちの無事と人類の明日の平安を祈らずにおれません。

坊ガツル湿原

孤独なミヤマアカネ

ヒメクロホウジャク

コガネグモに捕われたアキアカネ

アカマルハナバチ

ヘリヒラタアブ

チュウレンジハバチ

コチャバネセセリ

イチモンジセセリ

アカタテハ

テングチョウ